

わが校の紹介

赤米のふるさと

小佐に学ぶ

養父市立小佐小学校

校長 北垣義晴

「いただき遠く陽に映えて、ふもとにのぞむ妙見山」と校歌の一節にあるように、本校は、妙見山を背にし、小佐川や日畑川の流れに沿った校区で、自然に親しみ自然に学ぶ勤労体験学習や基礎体力づくりは絶好の環境にあり、その中で、32名の児童が毎日楽しく伸び伸びと学校生活を送っています。昭和38年の平城京跡発掘調査の際、小佐から平城京へ「赤米」5斗を納めたことを記した木簡が発

掘されたことから、地区民の郷土意識が高まりました。それと相まって本校では、学校と地域が一体となって15年前から「赤米づくり」に取り組んでいます。平成14年度からは総合的な学習の時間の一環として取り組み、家庭や地域の支援を受けながら本校の一大行事として根付いています。今では「赤米といえ小佐小学校、小佐小学校といえ赤米」と言われるほど本校の赤米づくりは、地域にしっかりと根を張り、学校の大きな特色となっています。

毎年、奈良平城宮跡で開かれていた「平城遷都祭」に参加し、赤米献上をする姿や特産物を持



再認識し、職員の共通理解のもとに日々努力しています。これから先も「赤米づくり」を通して、先人の知恵や技術、郷土の歴史や文化に対して、感動と共感の心を育て、この地に生まれ、この学校で学べることを喜びと感ずる子どもたちを育てたいと思います。

窓 入学・進級にあたって

入園・入学、進級おめでとうございます。4月は、子どもたちにとって、環境ががらりと変わってやる気満々の月です。学校が変わる。担任の先生が変わる。教室が変わる。教科書が変わる。皆が一つずつお兄さん、お姉さんになります。それに、長い冬から解放され野外の活動も盛んになります。

子どもたちは、この新しい環境に慣れることにウキウキしていることでしょう。普段私たちは、子育ての多くを「ことば」でします。ことばであやし、ことばで尋ね、ことばで指示し、ことばで叱り、ことばで励まし、ことばで教え、ことばで支える…。どう話せば子どもに思いが伝えられ、どういうことばを使えば子どもと心がつながるのかと考えるのも自然なことです。

家庭環境づくりを家族みんなで取り組むことも大切です。運動不足の子どもには、一緒に運動場や公園を歩いたり、遅くまで起きている子には家族で早く寝るよう協力したり、テレビの時間を家族みんなで減らしてみたり。「子どもの成長」は同時に「親の成長」と言われます。子育てをとおして、子どもと一緒に家庭生活を見直し、新しい学年には、新しい環境を創りたいものです。

(学校教育課)

まちの文化財⑩

樽見の大ザクラ

□大屋小学校は4月7日、8名の新入生を迎えました。「けじめの山の大きから、朝日ににおう花のごと」という校歌が歌われました。1年後に統合をおかえることから最後の入学式になります。

けじめの山の大桜とは、大屋町樽見にあるエドヒガンザクラのことです。推定樹齢は千年で、昭和26年に国指定文化財、天然記念物になりました。幹廻りは6・3㍎、樹高は13・8㍎です。幹には樹皮のコブが入り組んで老木の風格を示しています。

養父市教育委員会では、平成15・16年の2年間で2千万円をかけて大桜の保存修理を進めました。昨年の台風で、地上から4㍎上の幹に、大きな亀裂が入りました。残念ながら衰えは確実に進んでいます。すでに平成10年に枯死寸前と言われました。そこで土壌改良と不定根を育成する治療を進めています。



高さ5㍎もある幹から栄養を求めてヒゲ根が出てきます。これが不定根です。しかし夏には枯れます。これを地面までのぼして栄養を補給させるのです。不定根5本が地面に到達し、直径25㍎にもなりました。花の量は昭和60年より多くなりました。

出石藩の儒学者、桜井舟山は文政6年(1822)3月にこの大桜を見学して、「仙櫻」と命名しました。我が国に2つとない銘木で、花は鮮やかで積雪のようだと詠みました。仙人の国にあるような気品にみちた大桜は、台風で傷つきながらも、今年も立派な花を咲かせています。(学校教育課)

トライやる・ウィーク 活動場所(事業所)を募集します

「トライやる・ウィーク」は、兵庫県内の公立中学校2年生を対象に実施されます。(実施期間は5月30日～6月3日) 目的は、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自立性を高めるなど、『生きる力』を育成することです。

お忙しい中ご迷惑をおかけしますが、生徒たちのために、みなさまの力をお貸しください。

- 募集期間 4月28日(木)まで
- お問い合わせ 養父市教育委員会 (☎664-1627)